

「義認と律法の調和」

1. はじめに

(1) 義認 (1:18~5:21)

①有罪宣言 (1:18~3:20)

②義の提供 (3:21~26)

*信仰義認の原則

*イエスは「なだめの供え物」となられた。

*3:23~24が重要である。

(2) きょうの箇所ではパウロは、2つのことを論じている。

①義認と律法の関係

②義認と律法の調和

2. メッセージのアウトライン

(1) 人間の誇りはどこにあるのか。

(2) 救いの道は、ユダヤ人と異邦人で異なるのか。

(3) 信仰は律法を無効にするのか。

4. メッセージのゴール

(1) 義認のために、人間が付け加える余計なものについて論じる。

このメッセージは、義認と律法の関係について学ぶためのものである。

I. 人間の誇りはどこにあるのか。

1. 1コリ1:22~24

「ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです」

(1) ユダヤ人も異邦人も、自らが大切だと思うものを持っていた。

(2) キリストの福音は、それらのものとは根本的に異なる。

2. ユダヤ人の誇り

(1) アブラハムの子孫であることを誇りとした。

①マタ3:9

『われわれの父はアブラハムだ』と心の中で言うような考えではいけない。あなたがたに言うておくが、神は、この石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことができになるのです」

②ヨハ8:38

「彼らはイエスに答えた。『私たちはアブラハムの子孫であって、決してだれの奴隷になったこともありません。あなたはどのようにして、「あなたがたは自由になる」と言われるのですか?』

(2) 割礼を誇りとしていた。

①エペ2:11

「ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者であって、」

(3) 律法を持ち、それを守っていることを誇りとしていた。

①ロマ2:17~18

「もし、あなたが自分をユダヤ人となえ、律法を持つことに安んじ、神を誇り、みこころを知り、なすべきことが何であるかを律法に教えられてわきまえ、」

(4) 神が自分たちの神であることを誇りとしていた。

①「アブラハム、イサク、ヤコブの神」

②自分たちは、イスラエル人である。ヤコブの子孫である。

3. 異邦人の誇り

(1) 知恵(学問)(ギリシア文明)

(2) 力(ローマ文明)

(3) 自由(ローマ文明)

(4) 自足している(自分のことは自分でできる)

(例話) 東日本大震災で日本人の誇りが砕かれつつある。

4. 信仰義認の教理を受け入れた場合は、それらの誇りはどうなるのか。

(1) 「それはすでに取り除かれた」

- ①部屋から閉め出された。鍵がかけられた。
 - ②英語で「shut up once for all」
 - ③ギリシア語の文法で、「アオリスト」という時制である。
- (2) どういう原理(原則)によって閉め出されたのか。
- ①行いの原理によってではない。
 - *行いのよる義の獲得は、誇りを生む。
 - ②信仰の原理によって、誇りは閉め出された。

II. 救いの道は、ユダヤ人と異邦人で異なるのか。

1. 信仰義認は、全ての人に適用される原理である。

「人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです」(28節)

- (1) 「それゆえ」という接続詞が入る。
 - ①これまでの議論をまとめている。
- (2) 「人が」とあり、ユダヤ人という言葉も、異邦人という言葉もない。
 - ①すべての人に同じ原理が適用される。
- (3) 同じ原理とは、「信仰義認」である。

2. 神はすべての人の神である。

(1) 3:29

「それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人にとっても神ではないのでしょうか。確かに神は、異邦人にとっても、神です」(29節)

- ①ユダヤ人は、神は自分たちだけの神だと考えて来た。
- ②しかし、神は異邦人にとっても神でもある。
 - *アブラハム契約の中には、異邦人の救いが含まれている。
 - *ロマ11章には、オリーブの木の神学が展開されている。

(2) 3:30

「神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです」

①割礼のある者とは、ユダヤ人のこと。

②割礼のない者とは、異邦人のこと。

(例話) 二契約神学 (ユダヤ人の救い方法と、異邦人の救いの方法は異なる)

Ⅲ. 信仰は律法を無効にするのか。

1. では、律法は無駄だったのか、無益だったのか。

「それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです」(31節)

(1) 驚愕の感情が背後にある。

①ユダヤ人の歴史の否定につながる。

②放縦につながる。

(2) パウロは強く否定する(顔をしかめて言葉を発しているような印象)。

①律法の否定ではない。

②律法の確立である。

③4:1~25でその説明が入る(アブラハムの例)。

(3) とりあえず原理を説明しておく。

①律法により罪が示される。

②信仰義認の道を選ぶようになる。

③その結果、聖霊の内住が与えられる。

④聖霊の力によって、律法の要求を満たすようになる。

(4) (例話) 札幌聖書塾(8期生) M姉のコメント

「私が所属していた教会は、霊の戦いが中心の教会で、私の確信をもってやっていました。しかし、霊の戦いをしてもなんの実もなく、霊の戦いにも教会形成にも疑問を持ち始めました。それと同時に、信仰に喜びも期待も持つ事ができなくなり、3年間ほご過ごしていました。中川先生のメッセージに出会い、そのメッセージを聞くと、神さまの素晴らしさ、愛に感動し、喜びが溢れ、神に喜ばれるように歩みたいという願いがわくのです。「~しなければならぬ」「~すべきだ」ではなく、みことばを通して神様にふれた時、神様の御心に喜んで従いたくなるのだ、と分かりました。人を変えるのは、みころばの力であり、それを正しく理解しなければならぬのだと思いました」

結論：人間が付け加える余計なもの

1. 罪の告白

(1) 1ヨハ1:9

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」

- ①この聖句は、救いの方法を教えたものではない。
- ②すでに救われている人に対して書かれたものである。
- ③信者の罪の処理に関する教えである。

(2) この教えの問題点

- ①自分が犯した罪をすべて覚えている人などいない。
- ②もしすべての罪を告白することが救いの条件であるなら、救いは不可能である。

2. 洗礼

(1) マコ16:15~16

「それから、イエスは彼らにこう言われた。『全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます』」

- ①この聖句は、バプテスマを受けなければ救われないと教えていない。
- ②否定的な言葉がない。
- ③当時は、信じた直後に洗礼を受けた。
- ④この聖句は、最も古い写本にはない。

(2) 使2:38

「そこでペテロは彼らに答えた。『悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう』」

- ①訳語の問題 「エイス」という前置詞。「〇〇のために」
- ②「〇〇のゆえに」「〇〇だから」とも訳せる。
- ③「罪が赦されたのだから、バプテスマを受けなさい」という訳が正しい。

(3) 使22:16

「さあ、なぜためらっているのですか。立ちなさい。その御名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい」

①訳語の問題

②「Arise and be baptized, and wash away your sins, calling on the name of the Lord.」

③前半は、洗礼は「立つ」ことに続くことを教えている。

3・メシアの主権に従う(ロードシップ論)

(1) イエスをメシアとして信じるだけでなく、メシアの主権に従う必要がある。

(2) ロマ12:1~2

「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまを知るために、心の一新によって自分を変えなさい」

①この聖句は、救いの条件を教えているのではない。

②すでに救われた者に、弟子となるための条件を教えている。